



大学入学共通テスト当日までに確認しておきたいこと

<大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト受験案内 から>

受験上の主な注意事項を23ページ「受験教科等の登録<Q&A>」より抜粋します。詳しくは受験案内のすべてに目を通すこと。

Q3 「受験する」として登録されている教科の受験を、試験当日になって取りやめることはできますか？

→A 試験時間単位で 受験を取りやめることができます。

その試験時間の科目は受験しなかったものとして取り扱います。0点として採点されることはありません。

Q5 「地理歴史、公民」を「2科目受験する」として登録しましたが、試験当日に1科目のみを受験することはできますか？

→A できません。

「2科目受験する」と登録した場合、2科目分の解答時間を合わせて一つの試験時間としています

Q8 理科の科目選択方法(A~D)を試験当日に変更することはできますか？

→A できません。

また、「理科②」を2科目受験すると登録した場合、2科目分の解答時間を合わせて一つの試験時間としているので、試験当日に1科目のみ受験することはできません。

Q7 「理科①」と「理科②」を受験する場合、同一名称を含む科目を組み合わせで選択することはできますか？

→A できます。

補足：「地理歴史、公民」においては、同一名称を含む組合せで2科目を選択することはできません。

(→「受験案内」p.3)

※以下は、データネット活用 BOOK「共通テスト受験生応援特別号」(パネッセコーポレーション 駿台予備校)より一部を引用

<共通テストの主な注意点【理科】>

共通テストにおいては、特に理科は、科目の選択方法が複雑なため、注意が必要です。

受験生は事前に申請したA~Dの4パターンのいずれかを受験し、試験当日に科目選択方法・受験科目数を変更することはできません。理科①、理科②内で出題科目からどれを受験するかは決めることができます。

グループ	出題科目	配点(試験時間)	科目選択方法
理科① 1/14(日)	物理基礎 化学基礎 生物基礎 地学基礎	2科目100点 (60分)	以下4パターンから選択 A: 理科①から2科目 B: 理科②から1科目 C: 理科①から2科目及び 理科②から1科目 D: 理科②から2科目
理科② 1/14(日)	物理 化学 生物 地学	1科目100点 (60分) 2科目200点 (130分)	

理科①は60分で必ず2科目解答します。なお、解答する科目の順序、解答時間の配分は自由です。

■各大学の共通テスト理科の受験パターン

国公立大の共通テスト理科の科目選択受験パターンと指定状況は以下の通りです。

A 基礎2科目受験・・・「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」の4科目から2科目を選択。

B 専門1科目受験・・・「物理」「化学」「生物」「地学」の4科目から1科目を選択。

C 基礎2科目＋専門1科目受験・・・「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」の4科目から2科目並びに「物理」「化学」「生物」「地学」の4科目から1科目を選択。

D 専門2科目受験・・・「物理」「化学」「生物」「地学」の4科目から2科目を選択。

【指定状況】

理科の科目選択受験パターンの指定は、文系学部と理系学部とで概ね傾向が分かれています。どの科目を選択するかは、志望校のみならず、受験する可能性があるかもしれない大学まで視野にいれて、入学選抜要項や学生募集要項等で入試科目をしっかりと確認する必要があります。

文系学部 文系学部は、ほとんどが「基礎2科目(A)」となっています。または「専門1科目(B)」の選択も認められていることもあります。

理系学部 理系学部は、ほとんどが「専門2科目(D)」となっています。または「基礎2科目＋専門1科目(C)」の選択も認められていることもあります。また、基礎科目と専門科目とで同一名称科目を組み合わせた選択を認めるかどうかは、各大学で判断が分かれているため、あらかじめ確認しておくように。(同一名称科目の組み合わせ例 「物理基礎」と「物理」など)

保健衛生系統(看護など)、食物・栄養学系統 これらの系統は、大学によって理科の受験パターンが異なるため注意が必要です。受験する可能性のある大学がどの科目選択受験パターンになっているのかはしっかり確認しておいてください。

<「地理歴史・公民」、理科②の2科目受験の注意点>

地理歴史・公民、並びに理科②において、2科目を受験する場合、(受験者本人の解答順に)前半60分で解答する科目を「第1解答科目」、後半60分で解答する科目を「第2解答科目」と呼んでいます。(今更言うことでもありませんが。) 1科目の成績のみを合否判定に利用する大学で2科目選択して受験した場合、合否判定では、第1解答科目の成績を利用する大学と、高得点の科目の成績を利用する大学があります。どの順番で解答するかは共通テスト当日に決められますが、志望校が特定の科目を設定している場合は、それに従って受験しないと2次試験の受験資格を失ってしまうことがあります。

■理科②の場合

例えば、表のように第1解答科目と第2解答科目の異なるSさんとTさんの場合

A 大学・・・高得点科目を採用するので、Sさん、Tさんともに問題なし。

選択科目と結果	Sさん	Tさん
第1解答科目	物理・80点	化学・50点
第2解答科目	化学・65点	物理・90点

B 大学・・・第1解答科目を採用するため、Tさんは化学・50点が採用される。

(物理・90点を使うことができません。)

大学が採用した科目	Sさん	Tさん
A大学(高得点科目を採用)	物理・80点	物理・90点
B大学(第1解答科目採用)	物理・80点	化学・50点
C大学(第1解答科目で物理を指定)	物理・80点	受験資格なし

C 大学・・・理科で必須となっている「物理」を第1解答科目で受験するよう指定されているため、Tさんは2次試験の受験資格を失ってしまう。(もし、TさんがC大学を第1志望としているならば、「物理」、「化学」の順に受験しなければならない。)

■地理歴史・公民の場合

Aさんのケース 志望大は受験科目として「地歴・公民」から2科目が指定されている。世界史Bを第1解答科目に、政経を第2解答科目で受験するつもり。

〈共通テスト受験時〉 試験開始時に世界史 B と政経に目を通したところ、政経の方が簡単そうだったので政経を第1解答科目、世界史 B を第2解答科目に受験した。
→2つの受験科目ともに採用されるところや高得点科目採用であれば、順番が変わっても問題なし。
しかし、第1解答科目採用のところは、世界史 B の方が高得点でも採用されない。

Bさんのケース 志望大のうち

国立大は「地歴・公民」から2科目が指定

(併願校の)私立大共通テスト指定科目は、世界史 B・日本史 B・地理 B・倫政から1科目。ただし、第1解答科目を可否に採用

Bさんは当日、政経を第1解答科目に、世界史 B を第2解答科目で受験するつもり。

〈共通テスト受験時〉 予定通り政経を第1解答科目に、世界史 B を第2解答科目で受験

→国公立大は両科目採用なので全く問題なし。

私立大学は、指定している科目に政経がないので、政経を第1解答科目で受験した場合は、評価に取り入れられない。この場合は、世界史 B を先に受験するべき。

ということ

基本的には第1解答科目を高得点が期待できる科目で受験すべきだが、併願校の科目指定によっては、順序を変えなくてはならないこともある。志望校の受験科目調査は、併願校も含めて精査すること！(特に私大共通テスト利用で、第1解答科目が採用されるところは注意)

<第1解答科目と第2解答科目をいつ決めるか？>

第1解答科目と第2解答科目をいつ決めるかも問題です。模擬試験を何回か受験すれば、どちらがより得点を期待できるかが、だいたい決まってくるので、併願等で特殊な場合(上の Bさんのケース)を除き、一般的には高得点の期待できる科目を第1解答科目にすべきです。ですからほとんどの人は、受験前から第1・第2解答科目を決めて受験するということになりそうです。

また、受験予定の全ての志望校が、2科目選択か高得点科目選択の場合には、解答する順序を気にすることはありません。

問題は、2科目受験の場合の1科目採用が第1解答科目であった場合で、2科目ともそのときの問題の難易度で、どちらが高得点になるか分からない場合です。

この場合に時間的余裕があるならば、最初に2科目の問題に目を通して、第1解答科目を決定すれば良いわけですが、問題を見る時間は第1解答科目の解答時間に含まれますから、ゆっくりと精査する時間はありません。本当にさっと目を通して決めることが重要です。このときに慌てすぎると、受験科目の間違い、特に「地歴」の A 科目と B 科目の間違いなどもやってしまう可能性があります。

いろいろな危険性を考えると、共通テストを受験する前には第1解答科目と第2解答科目は決まっていることが望ましいという結論になります。

基本的には第1解答科目と第2解答科目は、遅くとも11月から12月にかけてのマーク模試の結果を見て、決める。

<国語の出題方法とその受け方について>

念のため確認しておきますが、国公立大と私大併願の場合は必ず現・古・漢で受験してください。現代文のみの私大の場合には、現代文部分の成績が使われます。国公立大は現・古・漢がほとんどなので、現文だけで受験すると、古・漢は0点扱いになり、併願がほぼ無理になります。(特殊なケースとして国公立大の理系学部で現代文のみの指定もあり得ますが、私が調べた範囲では見当たりませんでした。) これまでの模試成績を見ると、私大希望者の中に、受験科目の型が一致している公立大を併願すると合格判定が出る人が中にはいます。その人達は、私大受験で一般入試力を鍛えた後で公立大前・中・後期試験を受験可能です。私立大が決まっても公立大などを併願し、結果として良い方を選ぶ

こともできます。私大の有名校はなかなか合格が難しいです。第3, 第4志望の私大に行くよりは公立大へ行った方が良いというケースも多く出てくるはず。どちらが良いかを受験後に自分自身で選択できるように、現・古・漢で共通テストの国語を受験し、私大受験の後にその鍛え上げた力で公立大前中後期試験を受験してはどうでしょう。入学金等のお金の問題も発生してきますので、お家の方や担任の先生と相談し、あらかじめリサーチしておくことをお勧めします。

<解答科目を正しくマーク・解答科目の問題ページを確認>

共通テストの解答用紙には、自分が選択した解答科目をマークする欄がある。解答科目欄のマークがない場合、もしくは複数マークした場合、どの科目を解答したのか特定できないために0点となってしまう。自分の受験する科目を正しくマークするように気をつけましょう。また、数学や理科などでは、教科別の問題冊子に各科目の問題が掲載され、ページごとに科目が分かれています。そのため自分が解答する科目の問題ページを確認せずに問題を解き始めると、受験科目でない科目を解答してしまい、志望校の受験資格を失うこともあります。試験本番は落ち着いて、受験科目の問題ページをまず確認しましょう。

自己採点について

約4人に1人は10点以上の誤差！ 自己採点はとにかく正確に！ 慎重に！

共通テストを前に、なぜ、自己採点が重要なのか？ なぜ自己採点をしなければならないか正しく理解できているでしょうか。共通テストの「成績通知」は、4月以降。共通テストの採点後の点数は、「成績通知」を希望した人だけに4月中旬以降に通知されます。つまり、出願校決定時に頼りになるのは、「自己採点」だけ。だから、自己採点ミスをしてしないよう、慎重に確認しましょう。なんと約4人に1人は10点以上の自己採点ミスをしています。(進研模試の結果より) もし共通テストの自己採点でこれほど大きな誤差があれば、1点の間隔に数千人がひしめく共通テストでは数点の違いが合否を左右するかもしれません。出願ミスにつながる可能性もあります。「正確な自己採点」のために、以下のポイントをしっかり守って、とにかく慎重に解答、自己採点をしましょう。

正確な自己採点のために～共通テスト本番での解答の掟～

- 試験開始前に、見直しの時間も計算に入れて時間配分をすること。
- 受験番号や名前などの記入に誤りがないかどうか確認すること。
- マークの「ダブリ」や記入欄の「ズレ」などがいないか確認すること。
- 受験中に自分の解答を問題冊子に必ず控えること。
- マークシート上で訂正した場合、問題冊子の控えにも訂正を反映させること。
- 訂正の際は完全に消しゴムで消すこと。
- 問題冊子の控えとマークシートの解答とが一致しているかを最後に見直すこと。

受験中の注意点 問題冊子に解答を控える。自己採点は受験中に始まっている！

時間との戦いになる共通テスト。しかし正確にマークするためには、焦りは禁物。解き始める前に見直し時間も含めた時間配分をすることが必要です。そのうえでマークミスをしてしないよう解答すること。まず、問題冊子に解答をチェックし、大問ごとにまとめてマークすることで、記入欄のズレなどのマークミスを防ぐことができます。これは、正確な自己採点をするためにも重要。記憶だけに頼った自己採点にならないよう、きちんと解答を控えること。見直しによって発見した間違いを訂正する際には、マークシートだけでなく問題冊子の控えも修正することを忘れないようにしましょう。